

# 山際塾長のこだわり教育論 15

## 二ガ手教科を得意教科するには

### 苦手な教科はありますか

何らかの小さなきっかけや、ささいな理由で、ある教科や単元が嫌に感じることはしばしばあるものです。なかなか理解できなかったり、すごく時間をかけたのに成果が十分に出なかったり・・・、そうしたきっかけで、「嫌い・二ガ手」の芽が作られます。

そして、嫌だから逃げる、あまり勉強しない、あきらめる、だからますます理解できない、分からないからますます嫌いになる、この繰り返しの悪循環によって、「嫌い・二ガ手」が増長していきます。

### 苦手教科を得意にする

苦手教科をすぐには得意教科にすることはできません。でも努力を続ければ、必ず得意教科にできるのです。ではどうすれば苦手教科を得意教科にできるのでしょうか。

それには前記の**悪循環を断ち切る**ことです。つまりその苦手教科を、特に長い時間かけてたくさん勉強するように努力するのです。意志の力で「勉強しない(したくない)」という気持ちを克服します。そしてとにかくやることです。

・・・ある日のやまぎわ塾の授業の現場で、教師と生徒のやりとりです・・・

(生徒)「私、(数学の)図形は嫌いです。」

(先生)「それは損ですね。ではもっと図形の問題をいっぱいやらないといけませんね。」

(生徒)「嫌いだからやりたくないのです。それなのにどうして先生はもっとやりなさいなんて言うのですか？ほかの単元で頑張るから、お願い。見逃して。」

(先生)「やらないから、わからないから、嫌いに思っているだけなのです。やれば必ず分かるようになるし、好きになれます。だからもっともっと図形問題をやるのが一番いいのです。先生がわかりやすく教えて行きますから大丈夫ですよ。頑張ってくださいね。」

あまり勉強しない→なかなか理解できない→すぐにいやになってしまいうを繰り返すために、苦手教科を得意にすることができないのですから、その逆のことをすればいいのです。

苦手教科を長い時間をかけてたくさん勉強するよう努力するのです。

一般に、嫌いな教科に取り組むときは「いやだなあ」「難しいんやろうなあ」と逃げ腰になっているものです。スポーツなどの試合で戦う前に相手に迫力負けしているような状態なのです。

それを自分で自覚して、「よーしかかってこい！」とがっぷり四つに組む気迫でかかれば、もはや半分以上勝ったも同然です。

これを数ヶ月でも続ければ、だんだん自信がついて、だんだんと好きになり、必ず分かるようになります。そしてさらに続ければもっと好きになって得意にさえなってくるでしょう。

やまぎわ塾では、こんな事例が常に数多くあります。英語は好きだけど単語を覚えるのがどうしても嫌い、と言っていた生徒に、徹底的に英単語の暗記とテストを繰り返して、ついに単語好きにさせてしまったという例や、数学の食塩水の問題がどうしてもいやで「食塩何パーセントとか書いてあるだけでアレルギーになる」と言っていた生徒に「だいじょうぶ、食塩水なんかこわくないよ」となだめながら指導を続けたところ、数ヶ月後には「食塩水は大丈夫、自信ある」と言ってくれるようになったりなど、枚挙にいとまがありません。

## あせらず楽しく

ただ注意すべきことは、苦手教科や単元のための学習では、特に最初は効率も悪いでしょうし、勉強そのものが苦しい、と感じ、持続できないことにもつながります。

ですから好きな教科や得意分野の学習をとりまぜながら、あせらずに楽しく学習を進めていける方策が大切です。